

解説編

徳川将軍の朱印状を読む（3）

【用語解説】

- ・玉蔵院・・・・・・・・さいたま市浦和区高砂に所在する新義真言宗寺院。
- ・浦和宿・・・・・・・・浦和宿は、日本の近世にあたる江戸時代に整備され、栄えていた宿場町。中山道六十九次（木曾街道六十九次）のうち江戸・日本橋から数えて3番目の宿場（武蔵国のうち、第3の宿）。
- ・醍醐三宝院門跡・・・三宝院は、京都市伏見区醍醐にある真言宗醍醐派醍醐寺の塔頭で、門跡寺院。真言宗系の修験道当山派を統括し三宝院門跡は、醍醐寺座主を兼ねていた。
- ・真福寺・・・・・・・・東京都港区愛宕にある真言宗智山派の別院。通称は愛宕薬師。真福寺を通して、配下の寺院へ各種通達が出された。
- ・大御所様・・・・徳川家康。
- ・奉書・・・・・・・・越前国（福井県）で製作される和紙。領知朱印状にはその一種である大高檀紙が用いられた。
- ・台徳院様・・・・二代将軍徳川秀忠。
- ・巖有院様・・・・四代将軍徳川家綱。

【文書解説】

玉蔵院に残る歴代将軍の朱印状に貼られた張紙や包紙の上に貼られた張紙の内容について記載したものである。このように、領知朱印状の各寺院における管理は徹底され、記録されていたことがうかがえる。

【指定文化財等】

玉蔵院文書 328 通は県指定文化財。なお、玉蔵院には寺領寄進状及び朱印状 12 通が伝存しており、さいたま市指定文化財に指定されている。また玉蔵院は「しだれ桜」の名所として知られている。このほか 8 月 23 日に行われる玉蔵院の施餓鬼は関東三大施餓鬼の一つである。

